

あずけと高岡

第2号



写経とスポーツ

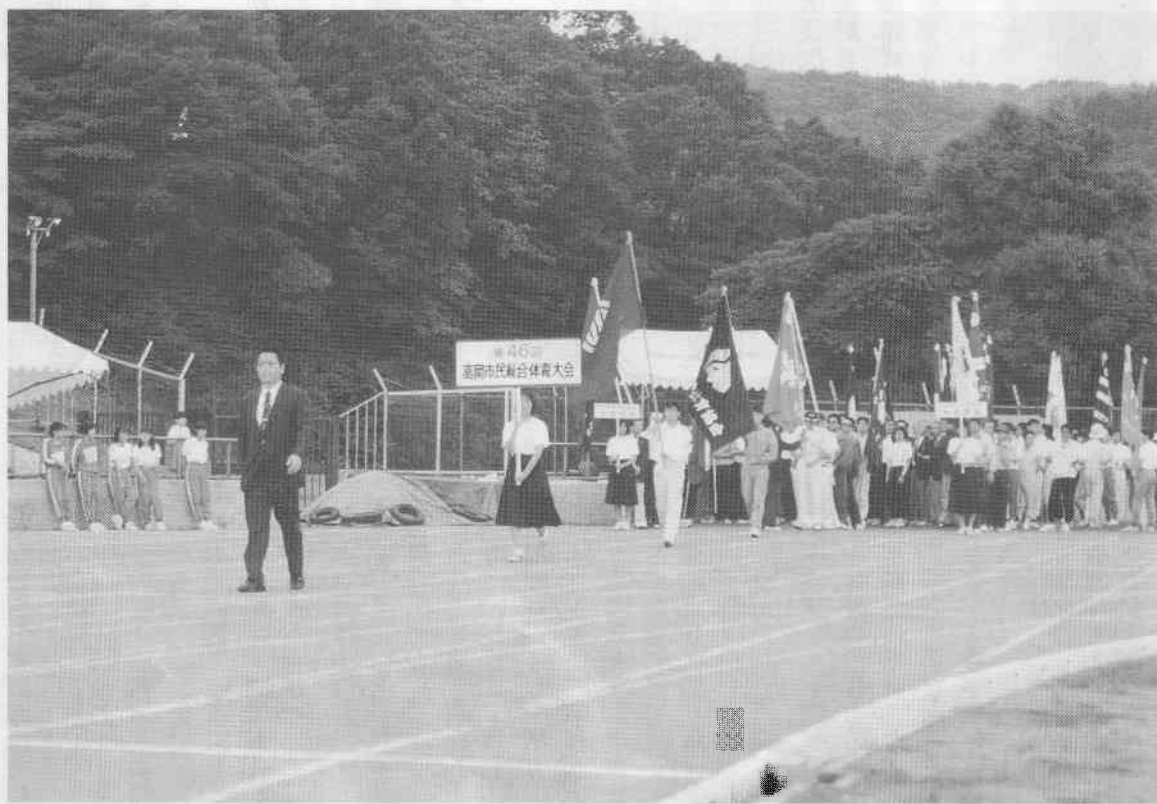
(財)高岡市体育協会副会長

谷道 巖

戦友の霊をなぐさめるため「般若心経」の写経を思い立ったのは、既に十二年前。毛筆に全く自信がない私のこと、当時一卷(二六二文字)を書き写すために、一日もかかったものだ。初めは下書きを置いて上からなぞるだけだったが、今では一万二千六百巻も手本なしで書くようになった。早朝の静けさのなか精神統一・斎戒沐浴の浄書、実に気持ちのよいものである。

こうして毎日墨をすり、『書道』に興味が湧いてきた。今や世の中ワープロの時代となり、毛筆を使う機会も少なくなりつつある。しかし毛筆には何ともいえない美しさと迫力があり、整った一点一画から生まれる文字の品格には、しばしば心打たれる。

スポーツを楽しむ人々の喜びもこのようであるらしい。練習や試合を通して、燃焼する時間というか、一つのゴール、一つの球を追う輝くような一瞬のための無垢な努力、同好の士に相通じる技への挑戦。写経も私を支えているが、スポーツ実践者から、このような話を聞くのもうれしいことである。



第1回評議員会開催!!

・4月22日
・高岡富士観ホテル

— スケート連盟加入承認 —

橋会長の開会のあいさつ並びに

来賓の篠島教育

長のあいさつに

引続いて財高岡

市体育協会表彰

式が行われ、表

彰状が八個人と

一団体に、感謝

状が十二個人に

渡された。議事

に入り、議長に

川淵義弘中体連

副会長を選任し、

議題に沿って次

の事柄を承認・

教育委員会と共にジュニア強化
事業の実施

④スケート連盟の新規加入
会長二上桂介 理事長中村勇進
事務局長北隆雄 会員数四十名

⑤役員変更
〈新役員〉
参与 久田仁一（中体連会長）
米島秀次（高体連会長）
理事 上田啓二（中体連理事長）
清水芳隆（高体連理事）
評議員 川田雄康 長瀬光雄
福田宗志 久田仁一
米島秀次 本川成重
中田真利子 二上桂介
中村勇進

事務局次長 大坂昭輔
（前芳野中学校長）
事務局次長 福井昭則
（市福祉保健部より）

議事終了後、鍛冶副会長より閉会
のあいさつがあり、その後懇親会
を開催する。

③平成五年度事
業計画並びに
収支予算
特に県・市の

〈表彰者〉
☆表彰状
氷見 勝（バドミントン協会）
十六年間会長として発展育成

に尽力
鳴川武彦（フェンシング協会）
十一年間副会長として尽力

中村一生（パワーリフティング協
会）理事長等を十年間務め競
技者を指導

能松泰蔵（中体連）十二年間体操
協会理事長並びに中体連役員
として尽力

竹沢新吾（アマチュアレスリング協会）
山形国体百kg級第二位入賞

橋本和代（中体連）第二十三回全
国中学校柔道大会女子個人五
十六kg超級第三位入賞

堤 博昭（中体連）伏木中学校柔
道部顧問 橋本和代を指導

南星中学校女子バドミントン部
第二十二回全国中学校バドミ
ントン大会にて女子団体戦第
三位入賞

新田公代（中体連）南星中学校
女子バドミントン部顧問

☆感謝状
大木芳衛（ソフトテニス連盟）
二十八年間連盟の発展に尽力

伊東金三（ゲートボール協会）
十一年間競技の普及・振興と
協会の発展に尽力

坂本日佐士（柔道連盟）昭和五十
四年より青少年を指導育成し、
連盟に尽力

八嶋孝志（サッカー協会）二十年
間少年サッカーの指導と共に
指導者を養成

小馬 保（水泳協会）昭和四十五
年より事務局長・副理事長と
して協会運営に尽力

藤本勝己（アーチェリー協会）
二十一年間にわたり競技の普
及・指導に尽力

金谷康司（スキー連盟）昭和五十
年より指導者として、六十二
年より副理事長として尽力

西海 昭（スキー連盟）昭和五十
一年より事務局長・副理事長
を歴任して連盟に尽力

指中亮一（卓球協会）長く高校生
を指導し、昭和五十二年より
常務理事として尽力

松浦士朗（中体連）二十二年間市
柔連・中体連の競技力の向上
に務め、発展に尽力

向井茂博（中体連）二十年間理事・
副理事長として中学生の体育
振興に尽力

米島 巖（相撲連盟）十六年間理
事・常任理事として大会の運
営や競技力向上に尽力

加盟団体紹介

高岡市陸上競技協会

昭和五十三年市営陸上競技場に第十七回北信越高等学校陸上競技大会を誘致して竣工を祝って以来十五年余り、その間市内の中・高校の選手達が機会あるごとに練習に励み、競技をし、その中から大森盛一選手をはじめ金田友子・田中伸宣・中尾美和選手等の様に全国レベルの選手が育っています。

置県百年を記念し開催された郡市対抗県内一周駅伝では、本市陸協が総力を挙げて取り組みました。その結果、中学生・高校生・一般男女の総勢九十三名が、高岡市の名誉をかけてタスキをつなぐ力走し、見事総合優勝を成し遂げました。又四回と九回大会では他郡市が成しえない男女アベック優勝を果たしております。

本協会も間もなく五十周年の節目を迎えることとなりますが、これを契機に谷道会長のもと、競技力の向上と競技人口の拡大に務め、又指導者の養成とジュニア選手の育成強化を図って、二〇〇〇年国

体の成功を目指しています。

そのために本年度より、市体協のジュニア選手育成事業の助成を受け、小中学生の強化を図っております。それと同時に、競技者数の薄い一般選手の組織づくりと役員の確保に頑張っております。

城光寺陸上競技場は恵まれた環境の中にあつて陸上競技等の拠点施設として、大きな役割を果たしてきました。しかし、近年スポーツの多様化や著しい競技力の向上などを考えた場合、施設の整備や全天候型のグラウンドへの改修が必要であり、一日も早い実現が望まれます。



高岡市野球協会

『戦後の復興は野球から』これを合言葉に終戦の翌年、逸早く協会を設立(昭和二十一年)、会長は橘直治。先ず、古城公園内に本丸球場を造成してもらおう。狭いながらも高岡初のスタンド付き野球場が完成した。

そして、昭和四十八年本格的公式野球場としての城光寺野球場完成。高校野球夏の大会の主会場として、華々しくスタート。この年から、高校野球県大会の主会場が、富山・高岡で隔年交代という大原則が確立された。大感激である。あれから二十年、城光寺野球場は硬式・軟式の各種大会を消化する。特に、今年は軟式野球の最高イベント天皇賜杯第四十八回全日本軟式野球大会を無事完遂し、ホッと一息つきたいところだが、二〇〇〇年国体あるいは高校甲子園大会に向けての課題・宿題は、次々と出てきている。

一、城光寺野球場の老朽化の改修。このまま放置しておくと、せっかくの高校野球の県大会が高岡から

消えていく恐れがある。

二、若手審判員・記録員の増強。その一環として女性審判員の公募・育成を考慮している。

協会紅一点のアナウンス嬢の近藤さをり嬢に続けてである。

三、学童・少年など二〇〇〇年国体で主戦力となるジュニア層の強化に関する計画的指導体制を確立しよう。併せて、甲子園で何故勝てぬかの反省と対策に取り組んでみたい。協会員四十名余、一致協力して頑張っています。

協会も近く五〇年になりますが、『より広く』『より高く』『より正しく』『より楽しく』の精神で頑張りますので、倍旧のご教示をお願い致します。



第46回高岡市民総合体育大会

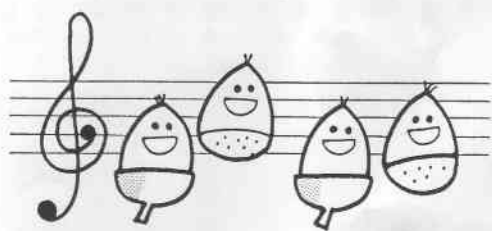
7月4日(日)城光寺陸上競技場において、陸上競技の大会に先がけ総合開会式、そして中心会期が7月10日、11日と市内一円で、小学生から高齢者に至る約1万人の参加のもとに、30競技49会場で、第46回高岡市民総合体育大会の熱戦が繰り広げられました。また、本大会の総合開会式には、新調した各団体旗が入場行進に華を添え、来たる2000年国体の主役として活躍が期待される小・中学生が勢揃いして盛大に挙行されました。



第四十六回高岡市民総合体育大会の反省会が、去る七月二十一日高岡市文化センターにおいて、市教委、各競技団体の理事長、体育協会役員の出席のもとに開かれました。話題となったことの幾つかを挙げると、総合開会式では例年やや参加が少ないのですが今回は、各競技団体の協力や呼びかけにより多数の参加があり、入場行進などのセレモニーによって開会式を盛り上げました。

◆市体の反省と今後の課題

競技運営では、一部雨のため競技に影響がでしたが、各競技役員の方々の適切な判断と献身的な尽力により、スムーズに運営が遂行されました。また、競技では、小学生の参加者が年々増加の傾向をみせており、今大会では九種目に一千余名が参加しており、スポーツ人口の拡大をめざす本市にとって喜ばしいことです。中学生の部では陸上競技において好記録が多く生まれたことや、各競技においても市の代表権をめざして迫力のあるプレー、会場を沸かす好試合が展開されたことは、小学生とともに本市スポーツ界の将来を担うだけに心強い限りです。一般の部では近年、壮年や婦人のスポーツ愛好者の増加がみられながら、全体的には市体への参加者は少なく横ばいの傾向を示しており、もっと各競技団体ごとに、クラブチームや企業チームの育成と掘りおこしを図り、参加者を増やすことが今後の大きな課題といえる。



第 46 回 県民体育大会 夏期大会



第四十六回県民体育大会は、八月七日(土)から三日間にわたり魚津市を中心に県下各会場において、小学生から一般に至るまで各競技に熱戦が繰り広げられ、本市からも多数のチーム・選手が参加し健闘しました。

総合成績では中学の部において、富山市に七点、一般の部では十一位の差でそれぞれ惜しくも二位となりました。この結果は、富山市との人口比から見ると順当と言えますが、今後の努力によっては念願の総合優勝も可能と思われる。

今後、中学校では一チーム、一個人だけでなく、全市的に多くのチームが高いレベルで互いに競い合い、伸ばし合うような層の厚さ、安定した競技力の維持を図ることが大切である。また、一般では、高校・大学卒業者のスポーツ選手の本市への定着、スポーツ競技経験者の堀おこしなど競技人口の拡大に努める必要がある。県体の成績や北信越国体、国体出場者数は本市スポーツ競技力のバロメーターとも言える。

■第四十六回県民体育大会夏季大会優勝者

水泳【中学女子】《百M自由形》
早川(国)【小学女子】《五十M
背泳》秋野(東五)《二百M個人
メドレー》竹内(野)

【家庭婦人B】高岡市選抜B【中学女子A】高岡市選抜

陸上【中学男子】《三年千五百M》
白井(芳)《二・三年百十MH》
久保(芳)《二・三年走高》小池

相撲【学童団体A】中田小【学童団体B】牧野小【学童個人】内河(中田小)【青年個人】新開(清水整骨院)

(伏)【中学女子】《二・三年百MH》前田(高西)《二・三年百丸》浦田(五)【一般男子】《百M五〇歳》浜木(片口小)《砲丸三〇歳未満》村田(スポーツ振興事業団)

ソフトボール【壮年男子】戸出六丁目【中学女子B】志貴野中
バドミントン【中学男子B】高岡市選抜【一般男子A】高岡市選抜【一般女子B】高岡市選抜【三〇歳男子単】嵐(日本製紙)

サッカー【一般男子B】向陵倶楽部(高岡市選抜)

【家庭婦人B】藤田・沢武(FTC)

バスケットボール【中学男子B】南星中【中学女子B】五位中

弓道【中学男子】尾崎(伏木中)柔道【児童団体B】高岡市選抜

ソフトテニス【中学男子B】高岡市選抜【中学女子B】高岡市選抜【一般男子B】高岡市選抜【一般女子B】高岡市選抜

ゲートボール【シニア男子】戸出伊勢領

卓球【一般女子B】高岡市選抜

ボウリング【一般男子団体】四柳・奥村・木戸・林(高岡市選抜)

■東四国国体の活躍

第四十八回国体には本市より夏季秋季合わせて七十四名という近來にない多数の選手団が参加しました。

夏季大会に於いてはボーリング成年男子の山下芳次選手（宇高運輸）が団体四位に入賞した。

秋季大会に於いては少年女子ソフトボールの高多和美投手（高二）のノーヒットノーランや完全試合による連続三位入賞やレスリングの原田圭一（近大）石王丸貴嗣（高商）両選手の五位入賞がありました。又、お家芸のバドミントンでは惜しくも成年女子の二連覇は成りませんでした。少年女子の高岡女子高校チームが見事三位に入賞して今後が期待されます。陸上競技少年Bの八田一弥選手は決勝十三位となった。

今年は明年のインターハイを控え少年勢に一定の成果が見受けられるが全種目において全国大会を勝抜く精神力とスタミナを養成する必要があろう。特に高岡開催種目はより一層の強化が望まれるし、それを支援しなければならない。

■インターハイ結果

平成五年度インターハイは、栃木県一円で開催され、高岡地区からも多数の選手が参加し、郷土の期待と母校の名譽をかけて奮闘しました。また、明年度の本県開催に向け、関係者や高校生も視察を行いました。本地区の選手の主な成績は、水泳の女子百M平泳ぎで、山本妙子（高一）が三位に、柔道の団体で小杉高、個人軽重量級で水口（高一）、ハンドボール女子で氷見高がそれぞれ五位に入賞した。明年度は開催地であり、地元として、より一層の競技力の向上が望まれる。

■全国中学校選抜体育大会結果

平成五年度全国中学校選抜体育大会が、去る八月十八日から二十五日まで近畿ブロックで開催され、本市より陸上、柔道、ソフトテニス、卓球、バドミントンの五種目に三十一名が参加し健闘しました。主な成績は、バドミントン男子ダブルスで、山崎、川岸組（伏木）、柔道個人五五kg級で、畠（芳野）がそれぞれベスト8に入賞した。



成功させよう!!

6全国高校総体

高岡市立高校

高岡ジュニア選手育成強化事業について

西暦二〇〇〇年に本県で開催される国民体育大会において、主力となつて活躍が期待される世代は現在の小学生、中学生である。

これらのジュニア層を対象に有望選手の早期発見とその育成を図るために、高岡市教育委員会のご支援のもと、本年度よりジュニア選手育成強化事業を実施することになりました。

今回は、本市が国体会場となるバドミントン、ソフトテニス、サッカー、水泳、軟式野球、自転車、ボクシングの七種目、外に七種目と計十四種目にわたり、競技団体が主となって小、中、高校生の指定選手を中心に二・三年継続して行うものです。

強化方法については、合同練習会、交流試合を通して基礎体力の養成や基本的な運動技能を習得させ、選手としての活動意欲を培わせるのがねらいです。

また、本事業の推進にあたって指導者の果たす役割も大きいので、資質向上のための講習会や研修会を開き、優秀な指導者の確保にも努めることとなります。

本市におけるスポーツ水準の向上のためにも、ジュニア選手の育成は体育協会の課題でもあることから、この事業を推進したい。

《スポーツドクター・アドバイス・第二回》

発育期の関節の構造とスポーツによる

軟骨の障害（とくに野球肘）について



発育期のスポーツ障害として、しばしば野球肘があげられます。

これは関節の軟骨の障害の代表的なものです。なぜ、発育期に関節の軟骨をいためやすいのか、関節の構造と発育期の特徴を示しながら、そのわけを説明いたします。

肩でも、肘でも、膝でも関節の相対する骨の表面は軟骨でおおわれています。軟骨は弾力性があるため、関節に受ける衝撃を和らげるクッションの働きをしています。

この軟骨の厚みは成人で約3mm程度ですが、発育期においては、将来骨になる部分がまだ軟骨の状態であるため、通常より厚く1cm近くあります。また関節は種々の動きが安定して行えるよう、靱帯と筋肉に支えられています。しかし、発育期においては、支持する靱帯

が軟らかく、筋力も弱いために、

成人にくらべ、よく言えば関節が柔軟であり、悪く言えば不安定であることとなります。この時期に、スポーツ活動で同じ動作を繰り返すと、本来クッションとしての軟骨に限界を越えたストレスが加わることで、厚くて軟らかい発育期の軟骨は、たちまちがれ落ちることになります。

とくに投球動作で、肘を屈曲する時に、肘の外側に強い圧迫が、内側に引き伸ばされる力がかかります。この結果、肘の外側には軟骨の障害が、内側には靱帯の障害が発生しやすくなります。

肘の痛みは、最初は練習の始めだけで、体が暖まると消えてしまいます。しかし、少し進行してきますと、練習中にも常に痛みが出ます。しまいには練習後にも痛みが続くようになり、肘の完全な曲げ伸ばしができなくなります。早め

りますが、手遅れになると、後遺症を残すことになります。

野球を初めてたった3カ月で、野球肘となり、かなり広範囲の軟骨がはがれ落ちたりトルリーグの選手を経験しています。こんな短期間で障害をきたすのは、フォームに問題もあるかと思いますが、いずれにせよ、この選手は今後、野球はおろか、バレーボールのアクツク、陸上の槍投げ、テニスのサーブなどの動きはまったく出来ないこととなります。

コーチの皆さんは選手達の痛みの訴えに常に耳を傾けるとともに、日頃の動きと違ったかばうような動きがみられたら、積極的に痛みがないか聞いてやる姿勢が大切であると思います。最大の予防はオーバーユース（使い過ぎ）にならないように努めることです。障害者のいないチーム作りこそが、選手層も厚くなり、結局は好結果につながるものと考えます。

高岡市民病院整形外科

山田 均

スポーツあぐる

今年のスポーツ界の最大の関心事は、「Jリーグ」の開幕であろう。サッカー人がプロ野球を凌ぐ勢いで上昇中である。

その白熱した試合、国内での最高の競技レベルの大会を、多くの市民が毎週観戦できる場のある事は誠に羨ましいかぎりである。

特に、あの熱狂的な雰囲気の中から声援している多くの子ども達は、知らず知らずのうちにスポーツへの憧れや大きな夢を育み、スポーツ競技への理解が生まれてくるものと思う。

今、本市では明年八月開催の高校総体更には二〇〇〇年国体に向けて懸命の努力がなされているが、その基盤となるものは市民のスポーツへの関心の高まりであり、スポーツ環境の充実ではなからうか。

多くの市民が親子連れで、ハイ・レベルの競技スポーツに接する機会と場をもっと設定したいものである。そのことがジュニア層の育成・競技力の向上、更にはスポーツ施設の整備・大会運営の充実ともなるのではなからうか。

「人は環境によって造られる」と言われるが、その環境を作るのも人であることを忘れてはならない。

トピックス

■女子ソフトテニス

チーム誕生

タカギセイコーフェアリーズ

〈行事予定〉

- 11・19 スポーツ医科学シンポジウム(高岡文化ホール)
- 11・27 トレーニング処方研修会(スポーツレクリエーションセンター)
- 12・5 役員研修会(雨晴温泉)
- 12・23 市民体育大会スケート(高岡スケートセンター)
- 1・4 新春武道稽古初め(高岡武道館他)
- 2・6 市民体育大会スキー(牛岳スキー場)
- 2月下旬 スポーツ講演会(未定)
- 〈関連事業〉
- 11・14 高岡万葉マラソン大会(二上・伏木地区)

今年三月、北陸三県では初の実業団チームが結成された。

高木社長は、『チーム活動を通して、企業イメージのアップをはかり、地域社会への貢献に努めながら二〇〇〇年国体の成功への原動力となる事』と抱負を述べられ、チームにはフェアリーズ(妖精たち)という全国初のマスコットネームがつけられた。

監督には、現役時代に全国大会優勝の経験を持つ、元日体大コーチの中村光臣氏が就任し、選手はブレイキングコーチで監督夫人の中村栄子さんを含め八名である。選手はいずれも国内大会で、上位入賞した若手トッププレイヤーばかり。惣田真由美、村中美由紀の両選手は地元の高岡女子高出身である。

五月二十三日福井市において、デビュー戦となる北信越実業団リーグ戦が行われ、見事初優勝を成し遂げた。

また、七月十七日、十八日仙台市においての東日本選手権大会では、植原・米田組がベスト8となる健闘を見せた。

さらに、九月十八日山口県宇部市において、日本実業団リーグ予選が行われ、予選Dリーグでは三戦全勝のトップ通過となり、創部半年で実業団リーグ入りを決めた。翌日の六リーグそれぞれ一位チームが出場した順位決定戦では、愛知製鋼(愛知県)等に惜しくも敗れ日本リーグ入りを逃した。

来シーズンには、日本リーグ入りを目指しており、地元の期待はますます膨らむばかりである。



編集後記

新制「体協」が発足して、分野の広報の中心となる広報紙を発行してはや二号となりました。数々の行事や大会をわかりやすくお知らせするよう努めました。しかし取上げる題材が多くて全てを網羅することが出来ず、申し訳なく思います。

又、読み易くするために、写真を多く使い、中でも市体の写真には動きのあるものを使い、県展審査員の中尾譲治氏に依頼して撮ったものを掲載しました。

(E)